

商品市況の持ち直しなどを支えに、  
堅調が見込まれるオーストラリア・ドル

楽読(ラクヨミ)

オーストラリアでは、昨年11月に貿易収支が2年8か月ぶりに黒字に転じたのに続き、12月には黒字額が過去最高を記録しました。貿易収支の著しい改善の主な背景は、同国の主要輸出品目である農産物・天然資源の市況持ち直し、特に輸出構成比率の高い鉄鉱石や石炭の価格の大幅な上昇です。

中国政府が昨年、景気下支えに向けてインフラ投資を活発化させたことなどを受け、同国の鉄鋼生産が拡大し、鉄鉱石や原料炭の需要増および市況持ち直しにつながりました。その中国は、最高指導部の人事や国家の基本方針などを決定する最重要会議で、5年に一度開催される共産党大会を秋に控えています。このため、景気の下振れや国民の不满につながりかねない大胆な改革は先送りし、安定を最優先した経済運営が続くとみられます。また、米国では、トランプ新政権が雇用や成長を重視する方針を鮮明にしています。同政権の保護主義的な面には注意が必要なが、中国と米国という2大国の景気が安定・加速に向かえば、世界景気の加速や資源の需要増加・価格上昇につながり、オーストラリアにも恩恵が及ぶと期待されます。

オーストラリアのGDPは、昨年7-9月期に前期比▲0.5%と、5年半ぶりのマイナス成長となりました。しかし、この主な背景は、悪天候によって建設投資や資源採掘が一時的に停滞を余儀なくされたことにあるとみられています。今後は、堅調を維持している内需に加え、商品市況の回復などに伴う輸出の増加が、景気を押し上げると見込まれています。なお、輸出面では、これまで進められてきたプロジェクトの完成に伴い、LNG(液化天然ガス)の生産が伸びると見込まれていること、さらに、LNG価格が連動する傾向のある原油価格が持ち直していることも、プラスに働くと期待されます。

なお、オーストラリアでは2011年以降、利下げ局面が続いてきましたが、足元では物価の伸びが加速し始めており、市場予想においては、RBA(オーストラリア準備銀行、中央銀行)の掲げる目標水準(2~3%)への回復が既に見込まれている状況です。景気や物価上昇率が回復に向かう見通しとなる中、市場では利下げ観測が後退しており、あるとしても極めて限定的な引き下げとの見方が拡がりつつある模様です。

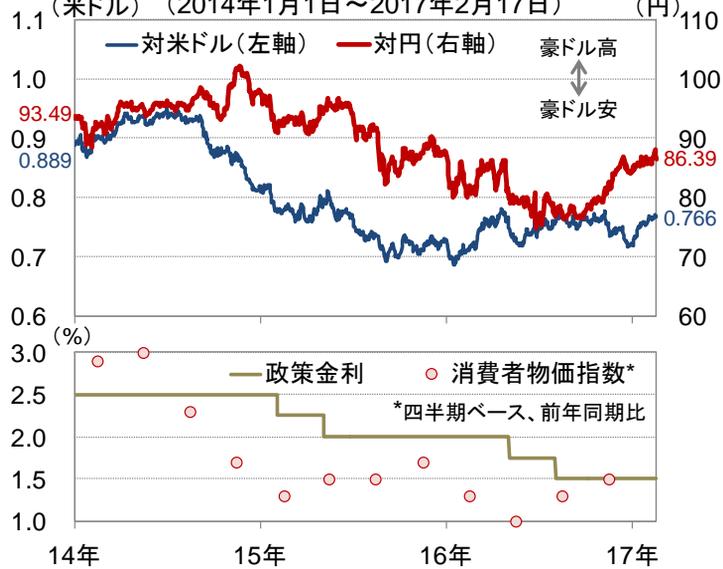
## 商品市況および貿易収支の推移

(2014年1月~2017年1月)



## オーストラリア・ドルおよび金利・物価の推移

(米ドル) (2014年1月1日~2017年2月17日) (円)



※上記は過去のものであり、将来を約束するものではありません。

日興アセットマネジメント

■当資料は、日興アセットマネジメントが市況等についてお伝えすることを目的として作成したものであり、特定ファンドの勧誘資料ではありません。また、弊社ファンドの運用に何等影響を与えるものではありません。なお、掲載されている見解は当資料作成時点のものであり、将来の市場環境の変動等を保証するものではありません。■投資信託は、値動きのある資産(外貨建資産には為替変動リスクもあります。)を投資対象としているため、基準価額は変動します。したがって、元金を割り込むことがあります。投資信託の申込み・保有・換金時には、費用をご負担いただく場合があります。詳しくは、投資信託説明書(交付目論見書)をご覧ください。